

まちづくり活動学習交流会 開催報告

つなげよう！ひろげよう！

～生協どうしのネットワークですすめる わたしたちの地域づくり～

東京の生協が協働してすすめる地域（まち）づくりへの理解を組合員リーダーや職員が深め、イメージを共有し、ネットワークを大切に「まちづくり」を考え合いました。

開催日：2017年5月19日（金）13：00～15：45

開催場所：東京都生協連会館 3階会議室

参加者：66名（12生協、事務局含む）

☆プログラム☆

- ◆「ひとりぼっちにしないまちづくり」
基調講演：宮城 孝法政大学教授
- ◆「東京の生協が協働ですすめるまちづくり」
東京都生協連：秋山事務局長
 - ◆質疑応答
 - ◆休憩

- ◆ ワークショップ&グループ発表
「孤立しない・させないまちづくりのために」
 - ◆講評
 - ◆終了

進行：東京都生協連
鹿野

松江市
瀬北台



DVD視聴

基調講演：「ひとりぼっちにしないまちづくり」 宮城 孝氏
法政大学 現代福祉学部福祉コミュニティ学科教授

あなたのお知り合いで認知症の方、介護されている方、引きこもり状態の成人の方はいらっしゃるでしょうか？あなたが一人暮らしになったらどんなまちであつたらいいですか？と投げかけから、先生のお話しが始まりました。経験したことのない超高齢者社会に向け、可能な限り住み慣れた地域で元気に暮らす事が出来るまちづくりを考えます。2025年には団塊世代がすべて75歳以上になります。健康寿命をいかに伸ばし、自立した生活を送るには、孤立しない、させない地域づくり、高齢者が持っている力を活かし、いろいろな世代の住民が協力し、高齢者が明るく元気に過ごせる地域づくりをすすめることが重要です。介護保険制度や介護保険サービスをまず“知る”事が大切です。知っていれば対応や利用することが出来ます。

広報・周知などは生協の持つ資源を利用すれば大きな効果が得られます。本人や家族が何を望んでいるかを理解しましょう。地方自治体の総合事業の実施を受け、地域の中では協力員の不足や男性シニア層の活動参加等、課題もあるが、最も重要なのは住民同士が知り合い、顔が見える協力関係を築く事です。近年は子どもの貧困、引きこもり、障害者への支援、8050問題等、多岐に渡っています。フードバンク、子ども食堂の広がりへ生協の取り組みに期待したい。住んでいる自治体にある地域包括支援センターエリアに認知症の人数が発表されているか、是非調べてみて下さい。その地域を知り、より多くの住民が参加し、楽しさや達成感を得、継続と反省の積み上げが安全安心なまちづくりにつながります。生協が地域の御用聞きになってほしいと願います。
〔川崎市宮前区土橋町内会の認知症カフェ、目黒区の認知症カフェ、山形県鶴岡市、埼玉県鶴ヶ島市の事例も学びました。〕

東京の生協が協働ですすめるまちづくり

東京都生協連 秋山事務局長

「ひとりぼっちにしないまちづくり」

を目指し、東京都生協連では、2010年から取り組んでいる福祉のまちづくりの活動を踏まえ、各地域の活動を大事にしています。7つの地域でまちづくり活動では、まちをしる・生協の見守り活動で見えて来た事・東京の生協が協働して出来る事・それぞれの生協が実現する事を大切にすすめています。

来年度以降を見据え、生協や様々な団体の皆さんと「まちづくり」で連携・協力関係を作ることができる人材育成の場「まちづくりの学校（仮称）」の開校準備をしています。地域連携・まちづくり活動に本格的に取り組む体制を準備します。地域の課題は生協だけで解決出来る事はなく、いろいろな団体と手を組んで進める事が大切だと考えています。

グループワーク：①困りごと・②解決できそうな仕組み・③わたしたちができること



Aさん：84歳女性、夫と死別し一人暮らし。親しい友人もなく、認知症の気配あり

Bさん：72歳男性、妻と死別、息子と同居。足が悪く外出が困難。

Cさん：24歳女性、2歳女兒を育てるシングルマザー。アルバイト収入のみ

- ① 買い物、相談できる友人がない。健康に不安
- ② 遅からず介護保険サービスの利用。社会資源を使う。
- ③ ご近所・知人の声掛け、おせっかい、話し相手。資産があるので、早めの対応が必要（成年後見人）。

- ① 買い物、食事、外出、コミュニケーション、本人の認識
- ② 生協の中の助け合いや、サロン、病院への送迎、民生委員へ連絡、公的サービスを使う。生協が持っている資源をアピールする。
- ③ ご近所のネットワークを張る。

- ① 経済面が第1位。相談相手、子どもとの時間と多岐に渡る。
- ② まずは行政へ相談。ひろば、サロン、子ども食堂。医療生協が行っている無料低額診療の案内。職業訓練を受ける。若い人の困りごとや支援については、難しい面もあるが今すぐにでも取り組まなくてはいけない課題。

*今回は②までをしっかりと出し合いました。

Q&A

アンケートより抜粋

Q：松江湖北台で行われている「しまね助け合いネットワーク」の有償システムについて

A：しまねの場合は、生協の会員以外の利用も出来、行政からの支援もある。生協にもある“たすけあい”のシステムを住民が行っている。生協に期待するのは、高齢者のみならず母子・父子世帯へ調査、研究をして、低額で利用出来る仕組みを作ってほしいと思います。

先生のお話しは実践を伴っているので分かりやすく参考になった／2025問題について考えていきたい／制度で支えてもらう・使っていいという意識付け／いろいろな取り組みを知った／高齢者だけでなく、若い人への支援が必要／孤立にもいろいろある／生協が協力してできる事／具体的に考えることができた／若年層への支援／若い人は活躍出来る場所をさがしている／自分だったらどうしようかと考えさせられた／思いもよらない発想もあり、とても楽しかった／生協の可能性を感じた／ボランティアも有償に／生協のしくみ、機動力／地域包括支援センターを知った／生協間連携／グループワークは大事／具体的な活動事例を聞きたい／社協、民生委員について理解が深まった

宮城教授からの講評

本日は地域で活動されている方たちなので、課題や資源がスムーズに出された。解決には早期発見、質の高いサービスへつなげて行く事が大事です。地域の資源は高齢者向けが中心で、若い人への支援は社会で活躍する場が必要と感ずます。既存のものには限界が来ているので、生協の組織率を駆使したネットワークを利用し、地域福祉のリノベーション。生協（自分達）が何をするか、住民に伝え、期待を担うそのやりとりが大切で、若い人たちが伝えて行くことが大切です。

まとめ

時間に余裕がなく、話も途中になってしまったグループもありました。関わる人も変わり、まちづくりって何だろう？進め方はどうするのと言った声があり、共通の理解の場として今回の開催に至りました。まちづくりをすすめたいとの思いを持った大勢の皆様のご参加、ありがとうございました。2017年は第2弾、第3弾と企画し、理解と共有をすすめていきたいと思ひます。（資料としてコミュニティーソーシヤルワーカー実践集を配りました。）

